

# Ⅲ 実践 編



ほめ・励ましのカードより

自分の意見や考えが  
まとまるようにワークシートに  
何度も何度も書きながら  
考えていますね。  
その考えるというところが人を  
成長させます。これから  
思考する時に手を動かす  
チャレンジという。

甲元先生のアドバイスをきいて  
からは、同じ勢いでワークシート  
に記入できていましたね。  
また、読みといた内容を結びつ  
けて原因を考えようとしていました。  
次は、その原因から、自給率を  
上げる方法を考えますが、資料  
を上手につかって、根拠をばり  
りさせるようにしてみてください！  
きっとみんなを納得させる  
ものができそうです。

先生の教は寺尾君の素直さに  
比例します。だからいいことは  
わかるといえる君の存在は  
周囲の人にも助けたいくらいです。  
そして、共に伸びていくことを  
わがた時の喜びも大事にし  
てほしい

## 2 生徒の実態

本校にはチャイムがない。そのため、自ら時計を見て判断し行動しなければならない。このような環境にいる本校の生徒は、自らコミュニケーションボードを見て3日先までの日程や課題の提出日、予定の変更等の情報を収集している。そして、1日の学校生活の流れを自ら考え行動に移している生徒が多くいる。学習においても、授業開始時刻を意識し、前もって準備したり、授業を大切にしたりする生徒や、積極的に発言する生徒の様子が多く見られる。そのため、学習内容における理解度は高く、これまでの研究紀要にも挙げているように一定の学力がついてきている。

本校では、数年前からNRT調査を実施し、生徒の実態を把握するとともに

に、「思考力・判断力・表現力」の向上に向けて取り組んできた。今年度の3年生・2年生の国語科・数学科・英語科の結果を能力別に全国平均と比較してみたところ、3教科の各能力は全国平均をほとんど上回っていることが読み取れる。特に、5年前から発表するときの話型に取り組んできたが、ひろしま型カリキュラム言語・数理運用科と国語科の領域と関連性を強め、学年別の「言語力のめあて表」を作成と学級掲示により「説明・表現力」においては、全国平均と比較して大きく差があることが読み取れる。

しかし、4つの領域を比較してみると本校の生徒も全国の生徒と同様に、「認知・理解力」に比べて、「思考・分析力」「応用・判断力」「説明・表現力」が低いことがわかる。

また、各教科担任が出題問題と誤答との分析をしたところ、「グラフの読み取りや問題点を明らかにする力（課題把握力）が弱い」こと、「自分なりにまとめること、ある現象において原因や理由を説明すること」に無回答が多かった。さらに、「少し難しい問題になると自信が低下し、取り組む意欲も低下する傾向がある」が挙げられている。

学級集団アセスメントによる生徒一人一人の学校生活への適応感を希望学級で実施したところ、各学年どの学級にも約3分の1の生徒が対人的適応の平均を下回り、対人関係に不安を抱えていることが分かった。

